

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	アウターライズ地震に備える：津波即時予測に向けた断層マッピングとデータベース構築
研究代表者	小平 秀一（国立研究開発法人海洋研究開発機構・地震津波海域観測研究開発センター・研究開発センター長）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、三陸沖のアウターライズで巨大地震を発生させ得る潜在地震断層の位置と形態を、余震観測と稠密反射法探査データによって特定することで、アウターライズ地震による津波浸水を予測することを目的としている。研究グループは海洋研究開発機構に所属し、国際学会誌掲載論文を多数有している。アウターライズの潜在断層に対するマッピング研究として、研究手法は確実で、独創性はやや少ないものの、明確で確実な世界的成果が期待される。一方、アウターライズ地震の重要性や緊急性には曖昧さがあり、また、研究組織が一機関にのみ依存し、研究の開放性に課題が残るが、日本が世界に先駆けて成果を期待できる研究であることから、基盤研究（S）として採択することが適当と判断した。</p>